



上州七日市駅リニューアルのためのワークショップ

富岡市 経済建設部 都市計画課

■ 上州七日市駅の現状



現在の上州七日市駅

上信電鉄の上州七日市駅は、県立富岡高校の最寄り駅であるため、近隣住民のほか、多くの高校生たちが利用しています。しかし、建物が老朽化している、バリアフリーの対応ができていない、駅前が狭く自動車での送迎がしにくいなどの問題があり、交通の拠点としての機能を十分果たせているとは言えません。

そうしたなかで、平成30年4月には富岡高校が富岡東高校と合併するため、駅を利用する生徒が増えることとなります。そこでこうした課題を改善し、新しい富岡高校と地域の玄関口としてふさわしい駅舎や駅前広場、駅前通りを整備することとしました。

■ ワークショップの実施



現地調査

この整備にあたって市では、周辺住民や利用者の意見を計画に反映することで、地域や利用者へ愛着を持ってもらえる駅舎やその周辺にしようと考えました。そこで地域のみなさんや上信電鉄職員の方、そして利用者の多くを占める高校生のみなさんを交えたワークショップを2回行いました。

1回目では、富岡高校から駅までの道路、駅舎やその周辺をワークショップメンバーと一緒に歩くことで、現状の再認識を図りました。その後でメンバーから、「トイレが少ない」「暗い」「駐車場がない」「駐輪場が狭い」、「(道路が)歩きにくい」「(道路の)防犯が不安」「(周

辺に残る)歴史的建造物が修理されていない」といった問題点を抽出していただき、将来を見据えた課題として共有しました。続く2回目では、共有した課題を踏まえて、「トイレの数を増やす」「照明を増やす」「太陽の光を多く取り入れる」「駐輪場を増やす」「ロータリーや駐車場が必要」、「街路灯を設置する」「(周辺に残る)歴史的建造物を修理し、歴史が伝わるように整備する」「(道路に)歩道を整備する」といった様々な改善策やアイデアを出してもらいました。



問題点の抽出

■ 将来の駅やその周辺の姿

現在、市では平成30年12月を目標に、駅とその周辺の整備に向けた作業を進めています。具体的な整備内容については、ワークショップでの意見を踏まえ、駅舎ではベンチや照明類の工夫、空調設備などの整備、トイレの数を増やしたりデザインも周辺と一体性をもたせる予定です。現在の雰囲気を残しつつも利用しやすく、防犯面も考慮していこうと考えています。また駅前広場と駅前通りについては、歩行者・車両ともに安心して通行できる環境づくり、車両の停車スペースを設けることでスムーズな送迎ができる環境づくり、周辺の歴史的建造物と調和した通りの整備などを検討しています。

今回の整備によって、これからの少子高齢社会のなかでも暮らしやすい地域になるよう、自動車や自転車といった末端交通機関との結節拠点としても、十分に機能する上州七日市駅にしたいと考えています。

